

聖イグナチオ教会 第4回オンライン講座 11月18日 担当：Sr野本佳子

テーマ：「畑に隠された宝」(マタイ 13・44)と「高価な真珠」(マタイ 13・45～46)

始めの祈り

いつくしみ深い神様、あなたはイエス様を通して天の国について教えてください。イエス様は私たちがよく分かるようにたとえで話してくださいました。このたとえにあるように私たちが「宝」を探し、見つけ、それを手に入れたいという思いを与えてくださいますように、その願いを込めて主の祈りを唱えて始めます。

- ポイント：1. 畑に隠された宝を見つけた人、高価な真珠を見つけた商人である「私」の視点から読む
2. 畑に隠された宝、高価な真珠である私を探し、見つける「神のまなざし」のもとで読む
3. このたとえ話の意味を私たちの生き方に当てはめて考えてみる。
4. 実践する：日常生活の中で「たとえ」を生きるには・・・？

テキスト：マタイ 13・44～46

天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。高価な真珠の一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。

1 畑に隠された宝を見つけた人、高価な真珠を見つけた商人である「私」の視点から読む

- 天の国は畑に隠された宝、高価な真珠の意味
- 「持ち物をすっかり売り払って買う」とは？
- 二つのたとえの共通点—「探す」「見つける」「喜ぶ」「持っているものを手放す」
- 「天の国」とは？ 目に見えない形で日常の生活の中ですでに始まっている。
- 人が持つ価値観⇒「この世の価値観」(お金、地位、名誉、物、学歴・・・など)
- イエスの価値観⇒マタイ 5章～7章；8つの幸い (マタイ 5・3～10)

<ニューヨーク大学リハビリテーション研究所の壁に刻まれている一患者の詩>

功績を立てようと、神に祈り求めたのに
謙遜に服従するようにと、弱さを与えられた。
より大きなことをしようと健康を祈り求めたのに、
よりよいことをするようにと病気を与えられた。
幸福になるようにと、富を祈り求めたのに、
賢くなるようにと、貧しさを与えられた。
人々の賞賛を得ようと、権力を祈り求めたのに、
神の必要を感じるようにと、弱さを与えられた。
人生を楽しもうと、あらゆるものを祈り求めたのに、
あらゆるものを楽しむようにと、人生を与えられた。
祈り求めたものは何一つ与えられなかったのに、
実は私が望んでいた全てのものが与えられた。
私の祈りにもかかわらず、私の言葉にならない祈りは応えられ、
すべての人にまさって、私は最も豊かな祝福を与えられたのだ。

2. 宝や高価な真珠である私を探し、見つける「神のまなざし」のもとで読む

- 神の宝であるわたし⇒ 出エジプト記19・4～5、申命記7・6、14・2
詩編135・4 マラキ書3・17
旧約聖書の中の神の姿 ⇒ 招く神（創世記12章アブラハムへの呼びかけ）、
救う神、導かれる神（出エ13：17～22）、共にいる神（3・12）、
養う神（16・1～17・7）、呼びかけられる神（サムエル記上3章、16章）
語られる神（イザヤ6・8、エレミヤ1・4～10、エゼキエル2章）の姿などで
ご自分を示される
- 神は良い羊飼い（エゼキエル書34・11～14）
- 神はわれらと共にいる神（イザヤ43・2）
- 神は私を忘れない（イザヤ49・14～16a）

シオンは言う。

主はわたしを見捨てられた

わたしの主はわたしを忘れられた、と。

女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。

母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。

たとえ、女たちが忘れようとも

わたしがあなたを忘れることは決してない。

見よ、わたしはあなたをわたしの手のひらに刻みつける。

3. このたとえ話の意味を私たちの生き方に当てはめて考えてみる。

「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのをさまたげてはならない。

天の国はこのような者たちのものである」 (マタイ 19・14)

1. 天の国と子供

「センス・オブ・ワンダー」(神秘さや不思議さに目を見はる心)から考える

レイチェル・カーソンが伝えている心

2. 「心の清い人は幸い、その人は神を見る」(マタイ 5・8)

見えないものを見る心、二心でない神のみを求める心、澄んだ心の敏感さ

3. わたしの「宝」「高価な真珠」はどこに? 一探す、見つける、

自分の持ち物を手放す、得る一

4. 「宝である私」「高価な真珠である私」とは?

4. 実践する：日常生活の中でたとえを生きるには・・・

1. 隠された宝である天の国を見つけるために自分の心に耳を傾ける。

* 「センス・オブ・ワンダー」の感性を大切にする

* 祈りの実践

2. 「いのち」への畏敬と愛

3. 心を開く：執着しないで手放す心

真実の声に気づき、従う素直な心

「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれか私の声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をするであろう」

(ヨハネの黙示録3・20)

参考文献：レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳「センス・オブ・ワンダー」
(新潮文庫)

若松英輔著「いのちの秘義」

レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』の教え

(亜紀書房)

聖イグナチオ・デ・ロヨラ著「霊操」(ホセ・ミゲル・バラ訳)(新世社)